

令和 3 年 4 月 23 日

松江市議会議長 森脇幸好 様

松江市議会議員 野々内 誠



令和 2 年度政務活動費収支報告について

松江市議会政務活動費の交付に関する条例第 8 条第 1 項に基づき、
別紙のとおり令和 2 年度政務活動費収支報告書を提出します。

令和2年度政務活動費収支報告書

松江市議会議員 野々内 誠

1 収 入

政務活動費 300,000 円

2 支 出

(単位:円)

科 目	金 額	備 考
研 究 研 修 費	円	
調 査 旅 費	80,710 円	珠洲市・七尾市
資 料 購 入 費	69,276 円	新聞購読料
資 料 作 成 費	円	
合 計	149,986 円	

3 残 額 150,014 円

(注)備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

(様式1-1)

令和2年度 政務活動費使用簿 (議員)

管理番号		
使途項目	調査旅費	
使途内容	石川県珠洲市等調査研究活動	
調査年月日 (購入年月日)	令和2年10月13日(火) ~ 令和2年10月15日(木)	
政務活動費 支出額及び充当額	【支出内訳】 支出額	(うち政務活動費充当額)
	・ 旅費 80,710 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円 ・ 円	80,710 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円
合計額	80,710 円	80,710 円
備考		

議員名 【 野々内 誠 】

YAHOO! JAPAN 路線情報

七尾→和倉温泉お祭り会館 2020年10月15日08:54出発

08:55発→09:21着 26分(乗車10分)

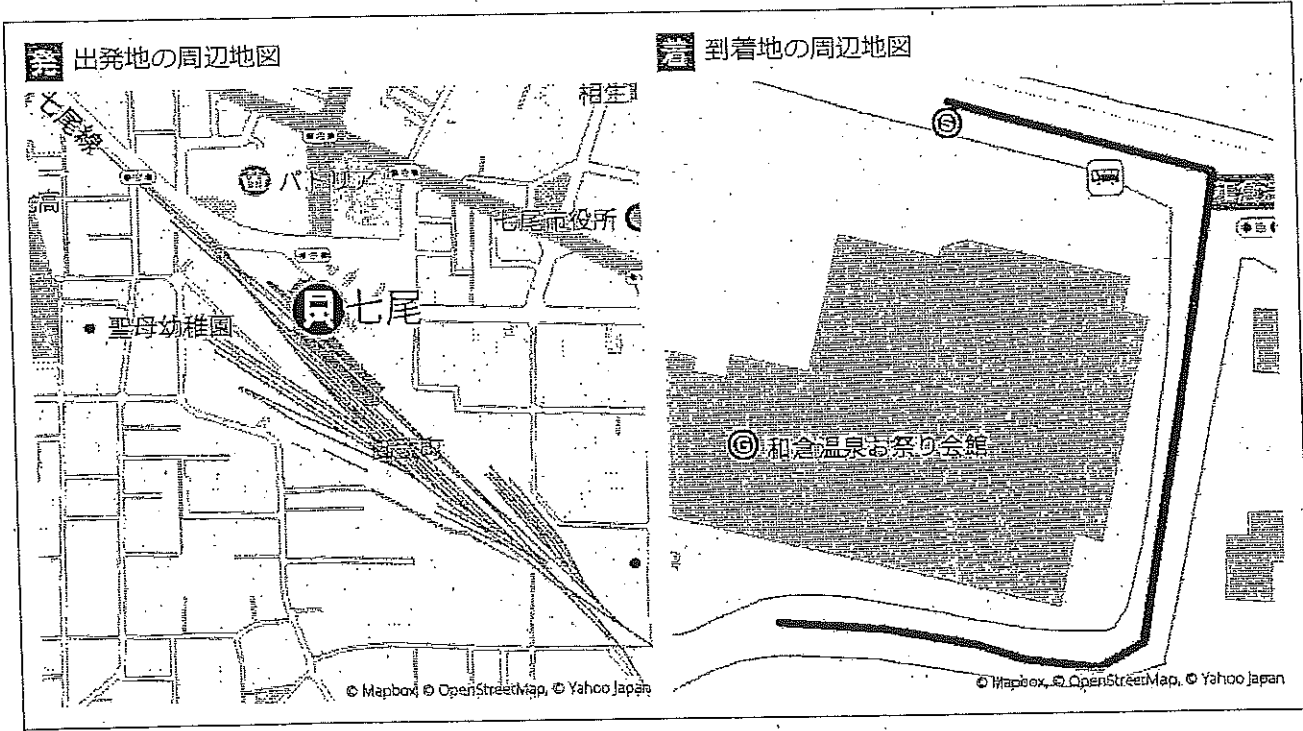


乗換：1回

6.9km

現金優先：360円

08:55	七尾	
	のと鉄道七尾線・穴水行	190円
09:01着 09:03発	和倉温泉	
	徒歩	
09:07着 09:13発	和倉温泉駅前/北陸鉄道バス	
4駅	北陸鉄道バス・和倉線(桧物町経由)・七尾駅前行	170円
09:17着 09:19発	お祭り会館前/北陸鉄道バス	
	徒歩2分 出口：徒歩	
09:21	和倉温泉お祭り会館	



(例) 用件や行き先などを入力すると、経路とともに印刷できます。

↑

↓

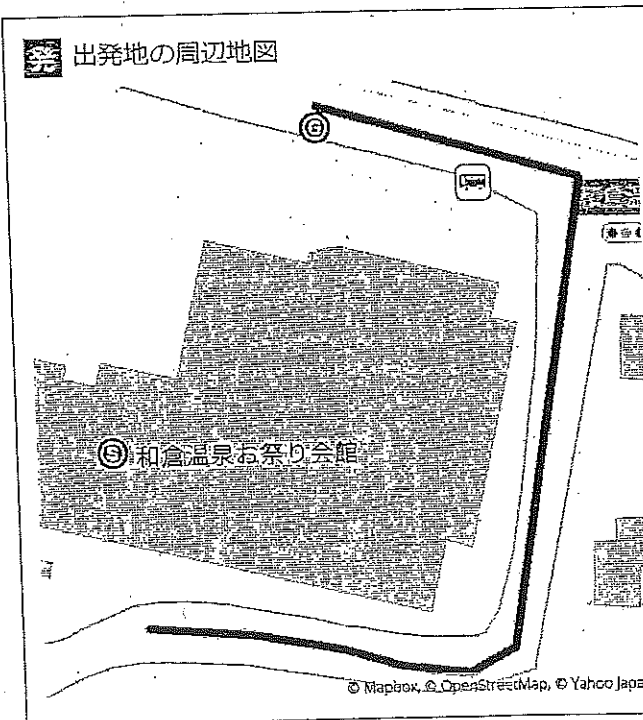
印	印	印	印	印
---	---	---	---	---

YAHOO! 路線情報
JAPAN

和倉温泉お祭り会館 → 能登空港 2020年10月15日15:59到着

12:42発 → 15:17着 2時間35分(乗車1時間3分) 乗換: 2回 43.1km
 (Ⓢ) 現金優先: 1,200円

12:42	和倉温泉お祭り会館		
	徒歩2分	出口: 徒歩	
12:44着 12:46発	お祭り会館前/北陸鉄道バス		
4駅	北陸鉄道バス・和倉線(小丸山城址公園経由)・七尾駅前行		170円
12:54着 12:56発	和倉温泉駅前/北陸鉄道バス		
	徒歩		
13:00着 13:18発	和倉温泉		
6駅	のと鉄道七尾線・穴水行		690円
13:52着 13:54発	穴水		
	徒歩		
13:58着 14:50発	穴水駅前/北陸鉄道バス		
8駅	北陸鉄道バス・穴水輪島線(臨空産業団地前経由)・輪島駅前行		340円
15:11着 15:13発	のと里山空港/北陸鉄道バス		
	徒歩		
15:17	能登空港		



(様式3-1)

研究研修、調査 報告書

議員名 野々内 誠

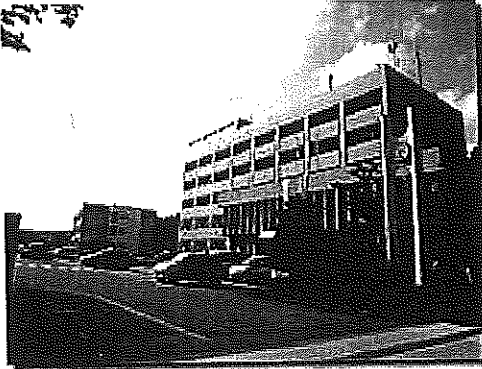
- 1、期 間 令和2年10月13日(火)～令和2年10月15日(木)
- 2、会 場 等 ①石川県珠洲市役所(令和2年10月13日(火)、14日(水))
②石川県七尾市お祭り会館(令和2年10月15日(木))
- 3、調査項目等 ①—①創業起業支援について
①—②空き家対策について
①—③奥能登国際芸術祭について
①—④移住定住支援策について
②—①移住定住支援策について
②—②和倉温泉お祭り館の運営について
- 4、講師(対応) ①泉谷満寿裕市長、向山忠秀市議会議員
高林義信産業振興課長、石尾和久商工振興・企業誘致係長
金田直之企画財政課課長、杉盛啓明移住定住推進専門員
金田直之奥能登国際芸術祭推進室長、水上昌子次長
②不嶋豊和市長、杉本 勉議長、木下敬夫副議長
七尾市役所：七尾市商工観光課 水谷氏、春野氏
DMO「(一社)ななお・なかのと」遠藤氏
- 5、参加者 (松政クラブ7名)
森脇勇人、野津直嗣、比良幸男、三島良信、吉金 隆、三島伸夫、野々内誠
- 6、調査内容・所感等
令和2年10月の市議会9月例会閉会后、10月13日から15日まで松江市の姉妹都市・石川県珠洲市と七尾市を市議会松政クラブの有志7名と訪問し、研修をさせていただきました。今回の視察研修は、一畑トラベルサービスが「出雲縁結び空港」と石川県の「のと里山空港」の間をFDA(フジドリームエアラインズ)による往復チャーター便の運航を計画したことで実現したものです。通常空路だと羽田経由になりますが、時間の大幅短縮と経費の節減です。
松江市では、現在国内の3市1町(兵庫県宝塚市・石川県珠洲市・広島県尾道市・愛知県丹羽郡大口町)と姉妹都市提携を締結して交流を進めています。野々内は、珠洲市訪問で、3市1町全部を訪問したことになりました。
珠洲市との交流は、『出雲国風土記』の国引き神話の中に、八束水臣津野命(やつかみずおみづぬのみこと)という神が都都の三埼(つづのみさき。能登半島の珠洲岬)を引いて縫いつ

けたのが三穂の埼（みほのさき。現在の美保関町）であると書かれていたことが縁で、昭和63年3月30日に旧美保関町との間で姉妹都市提携を締結したのが始まりです。

10月13日(火)

12時05分に「出雲縁結び空港」を飛び立ったFDAチャーター便は、約50分で「のと里山空港」に到着。2泊3日の観光ツアーの乗客と別れて、一路珠洲市へ直行しました。

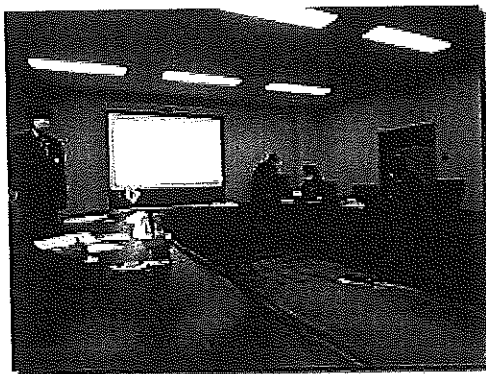
珠洲市（すずし）は、石川県の北東部、能登半島の先端に位置する市。面積は247.20km²、人口は12,862人(本年8月現在)です。珠洲市役所内の研修会場では、泉谷満寿裕市長と向山忠秀市議会議長に待ち受けていただき歓迎の挨拶も頂戴しました。



珠洲市役所



泉谷満寿裕市長(左側)と向山忠秀市議会議長



研修中

13日は、「雇用の拡大にかかる事業」を研修しました。起業・創業支援、企業誘致など雇用の拡大にかかる事業(地域活性化創業支援事業等)についての研修でした。説明は、珠洲市産業振興課の高林義信課長と同課の石尾和久商工振興・企業誘致係長。珠洲市は能登半島の先端に位置し人口が1985年の25,860人に比しても半減しており「最果てのまち」を標榜するほど真剣な取り組みでした。

「珠洲の仕事場創業・拡大支援助成金」事業は、地場産業を活性化させる創業・事業拡大を支援するとし、平成20年度から令和元年度までの助成累計は18件。企業誘致は条例に基づき新設・増設が対象で投資額1千万円以上・3人以上の雇用が対象で、実績は11件、全て製造業だという事でした。課題としては、距離的に不利・労働力不足を挙げられましたが、厳しい現実を克服するための努力は続くと考えさせられました。また、財政規模が小さい自治体にも関わらず、一事業者につき200万円の市単独事業を行っており、市長を始めとする執行部の本気のやる気を見ました。松江市でも見習いたいと強く感じました。

13日の宿泊地は、中心部から少し離れた市内蛸島町の海岸部にある珠洲市唯一のホテルでした。周辺は市営のスポーツ施設などに囲まれた場所でした。

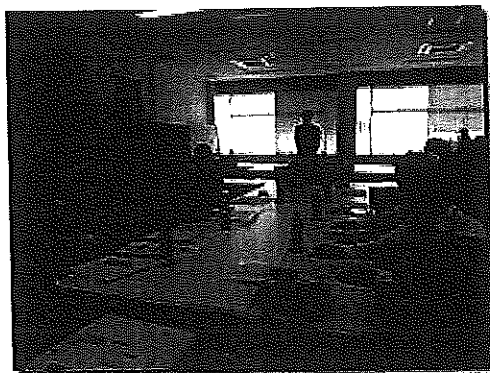
10月14日(水)

海岸に近いホテルで起床し、松林を抜けて近くの海岸を散歩しました。遠く白山連邦が見えるはずでしたが、残念ながら雲が上部にあり対岸に陸地があることは確認。キャンプ場やロッジなどが整備された海岸で、夏は賑わうだろうかと歩きました。



午前中は、昨日に引き続き珠洲市役所で研修です。本日は市役所対面の別館が会場でした。市長に出迎えていただき恐縮でした。

研修は、まずU・Iターンの受け入れ強化による移住定住の促進にかかる事業(就業支援事業等)についてで、説明は、企画財政課の金田直之課長、同課の杉盛啓明移住定住推進専門員でした。総合戦略の位置づけとして「日本一幸せを感じられる珠洲市を目指して」をまちづくりのコンセプトとして、子育て世代を中心とする移住・定住の促進を図っていました。



珠洲市役所別館で研修

課題の解決に向けた取り組みとして、U・Iターンの移住相談のワンストップ窓口の設置(webマガジン「すつとずっと」・facebook・インスタグラム等による情報発信、オンライン移住相談)、気軽に相談・交流できる拠点づくり等を進めていました。すぐ住める賃貸物件を増やすために空き家バンク制度の充実、移住定住促進補助金として平成24年から179世帯へ交付、また空き家購入費補助金は空き家バンク登録物件の購入者(購入経費の3分の1上限

100万で平成27年度から29件、うちU・Iターン7件)、空き家改修費補助金は空き家バンク登録物件の買主・借主・貸主に2分の1上限100万で平成23年から35件で実績を上げていました。このほか多くの支援策が用意されていました。

多様な働き方に対する支援として、実践型インターンシップ、地域づくり実践講座を展開。里山里海を活かした体験や探究的な遊びの推進として、親子で楽しむ里山里海体験、保育所での自然体験が用意され、子育てしたい移住家族を増やす取り組みを行っていました。

まとめとして、持続可能な未来に向けて、移住×遊び(子どもの「生きる力」を育むまなびのまち)、移住×挑戦(若者の「挑戦」を応援するクリエイティブなまち)、移住×継承(土地に根ざした「知恵」を継承し、みがき上げるまち)、移住×共生(多様な人々が自分らしく生きられるまち)を掲げて頑張っていました。全国でも先駆的な取り組みは、過疎や人口減少にひるんではいません。

次に、文化や音楽、芸術を活用した魅力づくりにかかる事業(奥能登国際芸術祭推進事業等)。説明は、奥能登国際芸術祭推進室の金田直之室長、同室の水上昌子次長でした。

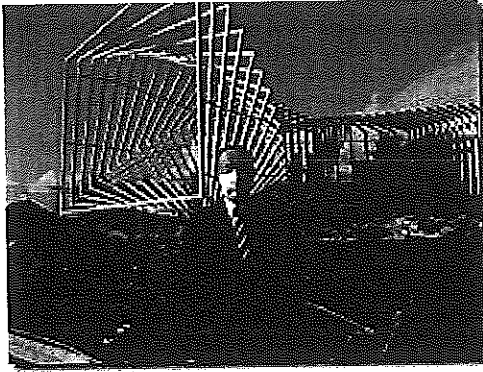
奥能登国際芸術祭開催の趣旨は、珠洲市の自然・祭り、食などの歴史や文化・風土・景観を活かしたアート作品を、地域全体をフィールドに展開するアートの祭典です。実行委員会を組織し「能登国際芸術祭2017」を初開催。世界から39作品を屋内外で展示し、来場目標3万人を倍以上上回る71,000人が来場しました。これらの作品の多くは市内に常設展示され、平成30年度は8,180人が来場し、経済効果は9,400万円、令和元年度は2,608人が来場し、経済効果は2,700万円という副次効果もあっています。

このイベントは実行委員会総額4億4千万円(市負担金+自主財源)、珠洲市負担総額5億3千万円(実行委員会への負担金を含む、国庫補助金・交付金・起債等を除く市支出2億9,500万円)で、経済波及効果は、珠洲市内5億2,300万円、石川県内9億円という事でした。

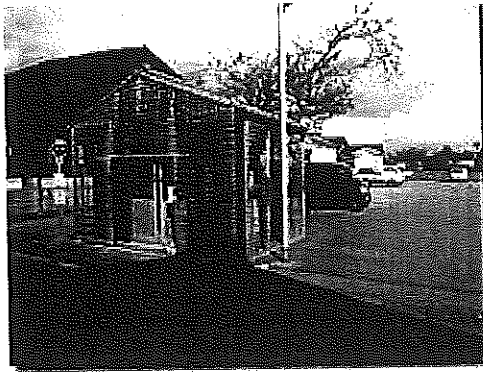
そして本年は「奥能登国際芸術祭2020」を開催予定で諸準備を進めてきましたが、コロナ禍のため「2020+」として1年順延となりました。前回の課題となった、交通や飲食、宿泊への対応等も取り組んでいましたが、来年への十分な準備時間ができたといえるでしょう。

「奥能登国際芸術祭2020+」は、令和3年9月4日から10月24日までの予定。16の国と地域から47組の作品を予定し、「最涯の芸術祭」としての存在感を高める・祭りの効果を他分野に波及させる・財源の多様化(市負担を減らす)・旅行者やサポーターなど関係人口の拡大を目標としています。

単なるイベントに終わらず、市民が積極的に協力参加する姿が見られ、開催後の地域がどう変わっていくかが一つの視点だと、担当者は語っていました。本気です。まさにまちづくりの進行形を見るようでした。松江市でも市民の意識啓発やまちづくりとして取り組むべき価値を感じました。



常時展示の作品

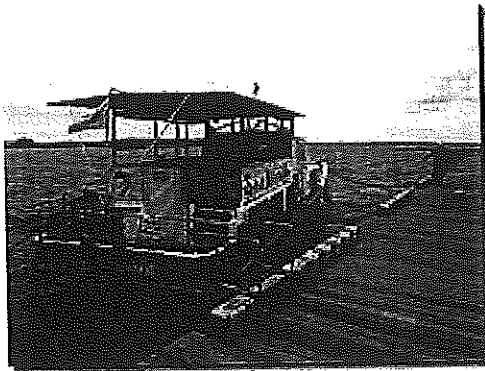


常時展示の作品(バス停流所)

そして午後は、珠洲市内の作品群などを視察させていただきました。夕方に隣市・七尾市に移動し、七尾駅前のビジネスホテルで宿泊でした。

10月15日(木)

七尾駅前のホテルの朝です。窓からは海が見えます。早朝の散歩は海の方に歩きました。七尾港にたどり着くと海辺の公園、「道の駅 能登食祭市場」がありました。三日目も雨に合わず、有意義な研修ができそうです。



七尾港

七尾市は、能登半島の中程に位置し、面積は318.29km²、人口は51,632人(本年3月末現在)。有名な和倉温泉やリゾート施設など観光資源に恵まれた市だそうです。

のと鉄道で七尾駅から和倉温泉駅へ。視察会場は「和倉温泉お祭り会館」の会議室です。待ち受けていただいたのは、不嶋豊和市長、杉本 勉議長。来週18日が市長選の告示日だそうです。挨拶の後退席。歓迎の挨拶は木下敬夫副議長で、雲南市加茂のご出身ということで話が盛り上がりました。



七尾市での視察中

研修は①「移住定住の促進にかかる事業」、②「和倉温泉お祭り会館の運営」です。

まず、①「移住定住の促進にかかる事業」の説明を、七尾市商工観光課の水谷氏、春野氏から受けました。

七尾市もご多分に漏れず人口減少に悩んでいました。特に少子化による人口の縮小傾向・進学期や就職期の人口流出が課題で、市内には大学がなく400人/年の流出の現状です。

このため、情報発信として、移住定住ポータルサイトを立ち上げたほか、移住相談セミナーを東京・大阪で年6回程度開催、オンライン相談対応も行っていました。また、サポートとして、国支援事業(地方創生推進交付金)を活用し定住コンシェルジュを一名配置し移住体験・短期移住施設・移住者へのサポートなどを行っていました。また、能登半島七尾移住計画を民間主導で始め、内には情報発信と情報収集・ネットワークづくり、外にはイベントの情報収集をするツールとして活動していました。

住まいへの支援として、県外から転入し住宅を取得すると最大100万円、市指定分譲宅地で新築すると最大200万円、資金借入時の助成・県外転入者の家賃助成等を行い、令和元年度では新築住宅奨励金94件、家賃補助金42件など実績を上げていました。

空き家バンクも、地域団体の同意を得て登録物件の契約成立時には10万円交付され、今年3月末までの実績は103件。公営住宅の入居時には家賃割引制度(県外移住者が4・5階入居)がありました。

仕事への支援では、就職希望者にはハローワーク等と連携していますが、求人と求職のマッチングが課題だと。創業希望者には「ななお創業支援カルテット」(市・商工会議所・信用金庫・日本政策金融金庫)がサポート支援を行っていました。そのほか、「ななおiju(イジュウ)創業パック、七尾市スタートアップ事業など多面的に支援していました。

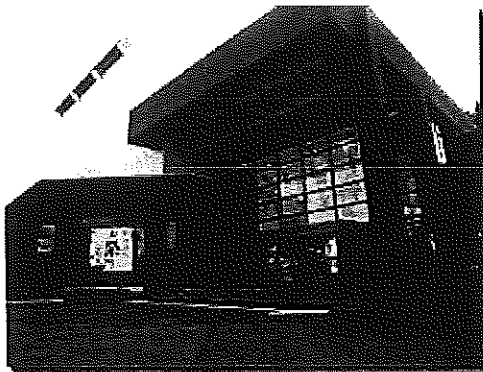
この結果、平成25年度から令和元年度までの7年度の移住者は690人、うち令和元年度の県外からの移住世帯は42世帯で、そのうち子育て世帯は9世帯という結果が出たそうです。ここでも本気のやる気です。

次に、②「和倉温泉お祭り会館の運営」の説明を七尾市職員でDMOに出向されている遠藤氏から受けました。

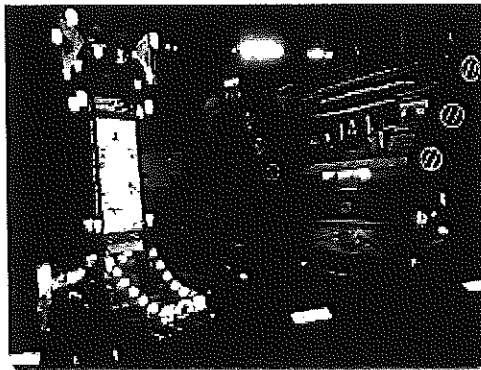
同会館は、観光地域づくり法人のDMO「(一社)ななお・なかのと」が市から指定管理を指定管理料なしで受託、入場料などで賄っています。観光協会は自治体ごとに存在する組織で行政の補助金で運営する組織が少ない。一方、DMOは複数の自治体を範囲とし観光まちづくりを進める組織としています。七尾市では、既存観光協会を母体とし別に2自治体で設立したDMOが同会館の指定を受けています。

和倉温泉お祭り会館は、和倉温泉での^入浴客などが時間を過ごす場所がない・七尾が誇る「青柏祭の曳山行事」など4大祭りを始めとした祭り文化を効果的に発信できていないといった課題を解決するために、地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金を活用し昭和56年竣工の「和倉温泉会館」を再整備し、現在の内容になっていました。

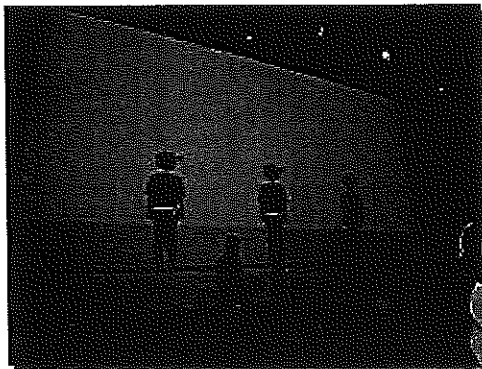
展示ホールでは実物展示の迫力、巨大スクリーンで音と映像による特徴ある4つの祭りが体験できる工夫がしてありました。松江市にはホーランエンヤ伝承館がありますが、展示してある櫓伝馬船は2分の1のスケールしかなく、そこには体験できる楽しさはありません。お金を中途半端に使って魅力の少ない施設となっています。やはり、実物大のスケール感は魅力です。松江市でも観光推進団体のあり方や観光施設の在り方を考える視察となりました。



和倉温泉お祭り会館の外観



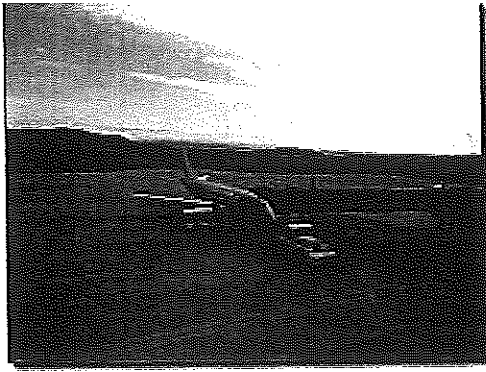
展示ホール。4つのお祭りの山車などの実物展示



巨大スクリーンで遊びの体験ができます。ちょうど市内の児童が学習に訪れていました

和倉温泉で有名な「加賀屋」の外観を仰ぎながら視察会場を後にし、和倉温泉駅から「のと鉄道」で穴水駅に移動、そして「のと里山空港」へ。17時20分に「のと里山空港」を飛び立ったFDAチャーター便は、「出雲縁結び空港」に18時30分到着しました。普通であれば、今はJR利用か飛行機で東京経由しかなく、早くて半日かかります。双方の観光客誘致のため、季節便でもいいので定期便が欲しいところです。コロナ禍のなかで、3密を避けマスク

避けマスク着用、消毒などに気をつけながらの研修となりましたが、有意義な得ることの多い視察研修でした。



のと里山空港でのFDAチャーター便

領収書貼付用紙

使 途	石川県珠洲市等調査研究活動
【貼付欄】	

冊番 № 0409-37	領 収 書
野々内 誠 様	令和 平成 2 年 10 月 1 日
金 額	百万 千 円
¥ 7 6 2 5 0	残高
但し 令和 2 年 10 月 13 日 ~ 15 日	入金内訳
航空券代金と宿泊代金として	現金・小切手・クレジット
	手形 年 月 日 期 日
	10% 銀行振込
上記金額領収致しました	日帰りかもし
	一畑サービス
	扱者印

お手数乍ら御支払の上は支払証印欄へ御調印願います。
社印取扱者印なきもの及び金額訂正したものは無効です。

28.3 (3×50) 720

(注意)

- この用紙 1 枚につき、領収書 1 枚を貼ること。(ただしレシートを貼る場合は、本書の横にコピーも貼ること)
- 領収書サイズがこの用紙よりも大きい場合は、【貼付欄】に「別紙のとおり」と記入し、貼らずにそのまま添付してもよい。

議員名【野々内 誠】

(様式 1 - 1)

令和 2 年度 政務活動費使用簿 (議員)

管理番号		
使途項目	資料購入費	
使途内訳	新聞購読料(山陰中央新報)	
調査年月日 (購入年月日)	令和 2 年 4 月 1 日(水) ~ 令和 3 年 3 月 3 1 日(水)	
政務活動費 支出額及び充当額	【支出内訳】	支出額
	・ 山陰中央新報購読料 39,600円 (12ヵ月分)	0円 (日刊紙1紙目につき)
合計額	39,600円	0円
備考		

議員名【 野々内 誠 】

領収書貼付用紙

使 途	新聞購読料(日刊紙 1紙目 山陰中央新報)
【貼付欄】	

領 収 証		B № 006634
野々内 誠 様		印 紙
¥39600		
内容 2020.4月~2021.3月分新聞代		
上記金額領収致しました。		
2021年3月30日		
株式会社 中央新報サービス		受領者印
株 中央新報サービス東出雲		
松江市東出雲町揖屋 電話(0852)52-		

(注意)

- この用紙1枚につき、領収書1枚を貼ること。(ただしレシートを貼る場合は、本書の横にコピーも貼ること)
- 領収書サイズがこの用紙よりも大きい場合は、【貼付欄】に「別紙のとおり」と記入し、貼らずにそのまま添付してもよい。

議員名【野々内 誠】

(様式 1 - 1)

令和 2 年度 政務活動費使用簿 (議員)

管理番号		
使途項目	資料購入費	
使途内訳	新聞購読料(日本農業新聞)	
調査年月日 (購入年月日)	令和 2 年 4 月 1 日(水) ~ 令和 3 年 3 月 3 1 日(水)	
政務活動費 支出額及び充当額	【支出内訳】	支出額
	・ 日本農業新聞購読料 31,476 円 (2,623 円×12 か月分)	(うち政務活動費充当額) ・ 日本農業新聞購読料 31,476 円
合計額	31,476 円	31,476 円
備考		

議員名【 野々内 誠 】

(様式 1 - 2)

領収書貼付用紙

使 途	新聞購読料(日本農業新聞)
【貼付欄】	

野々内 誠 様

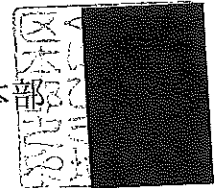
「日本農業新聞」購読証明書

購読期間	月購読料	合計購読料	備 考
令和 2 年 4 月分から 令和 3 年 3 月分まで	2,623 円	31,476 円	12 カ月分

上記のとおり購読されたことを証明します。

証明年月日 令和 3 年 3 月 25 日

証 明 者 島根県農業協同組合 くにびき地区本部



(注意)

1. この用紙 1 枚につき、領収書 1 枚を貼ること。(ただしレシートを貼る場合は、本書の横にコピーも貼ること)
2. 領収書サイズがこの用紙よりも大きい場合は、【貼付欄】に「別紙のとおり」と記入し、貼らずにそのまま添付してもよい。

議員名【野々内 誠】

(様式 1 - 1)

令和 2 年度 政務活動費使用簿 (議員)

管理番号		
使途項目	資料購入費	
使途内訳	新聞雑誌購読料(山陰経済ウイークリー)	
調査年月日 (購入年月日)	令和 2 年 4 月 1 日(水) ~ 令和 3 年 3 月 3 1 日(水)	
政務活動費 支出額及び充当額	【支出内訳】	支出額
	・ 山陰経済ウイークリー購読料 37,800円 (3,150円×12ヶ月分)	37,800円
		(うち政務活動費充当額)
		・ 山陰経済ウイークリー購読料 37,800円
合計額	37,800円	37,800円
備考		

議員名【 野々内 誠 】

(様式 1 - 2)

領収書貼付用紙

使 途	新聞雑誌購読料(山陰経済ウイークリー)
【貼付欄】	

領 収 証		B № 006633
野々内 誠 様		印 紙
¥ 37800		
内容 2020.11月~2021.3月分 ^{経済} ウイークリー代		
上記金額領収致しました。		
2021年 3 月 30 日		
株式会社 中央新報サービス		受領者印
株中央新報サービス東出雲		
松江市東出雲町揖屋 電話(0852)52-		

現金	
小切手	
手形	
振込	
相殺	
その他	

※ 金額の訂正及び受領者印のないものは無効です

(注意)

- この用紙1枚につき、領収書1枚を貼ること。(ただしレシートを貼る場合は、本書の横にコピーも貼ること)
- 領収書サイズがこの用紙よりも大きい場合は、【貼付欄】に「別紙のとおり」と記入し、貼らずにそのまま添付してもよい。

議員名【野々内 誠】